

看護専門科目	広域発展看護学					
看護学科	必修	1単位	演習	平成30年度	後期	2年次
科目名	広域発展看護学実践論Ⅰ（地域に生きる人々と看護連携）					
担当教員	◎佐竹幸美 高橋晶					
目的	病院（施設）から在宅へ切れ目の無い医療の必要性を学び、地域の保健・医療・福祉職との連携の必要性や在宅看護に必要な視点と考え方が理解できる。					
目標	1. 在宅療養者と家族の健康レベルや発達段階に基づいた看護の内容が理解できる。 2. 在宅看護に必要なセルフケア援助の視点と考え方が理解できる。 3. 療養を続ける場の違いから在宅療養を支える看護職の役割が理解できる。					
他科目との関連	「広域発展看護学概論・広域発展看護学実践論Ⅱ・Ⅲ」「広域発展看護学実習Ⅰ」と密接に関連する。					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	筆記試験				1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	櫻井 尚子ほか、地域療養を支えるケア（ナーシング・グラフィカ在宅看護論）、メディカ出版、2016					
参考資料	杉本正子、眞船拓子「在宅看護-実践をことばに」ヌーヴェルヒロカワ 2013					
備考 (受講上注意、 事前学習等)						